

2020年度(2021年3月期) 第1四半期決算説明資料

IHI

2020年8月11日

株式会社 IHI



目次

1. 2020年度第1四半期 連結決算

連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書).....	4
報告セグメント別内訳.....	5
営業外損益.....	12
連結貸借対照表.....	13
補足資料.....	14

2. 2020年度 連結業績見通し

今後の見通し.....	17
-------------	----

3. 報告セグメント別の概況

資源・エネルギー・環境.....	19
社会基盤・海洋.....	21
産業システム・汎用機械.....	23
航空・宇宙・防衛.....	25

<参考資料>.....	27
-------------	----

※ 各項目の金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

1. 2020年度第1四半期 連結決算

1. 2020年度第1四半期 連結決算 連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書)

2020年度1Q 売上平均レート (米ドル) 107.05円

(億円)

	'19年度1Q	'20年度1Q	増 減
受 注 高	2,200	1,674	▲ 525
売 上 高	2,811	▲103 2,185	▲ 626
営 業 利 益	9	▲15 ▲ 92	▲ 101
経 常 利 益	▲ 6	2 ▲ 79	▲ 72
税金等調整前 四半期純利益	▲ 6	▲ 79	▲ 72
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲ 27	▲ 76	▲ 48

‘20年度1Qの売上高, 営業利益, 経常利益の左肩の数値は, 収益認識会計基準(※)適用の影響を示しています。

※収益認識会計基準: 「収益認識に関する会計基準」 (企業会計基準第29号 2020年3月31日)

1. 2020年度第1四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(受注高・受注残高)

(億円)

	受注高			受注残高		
	'19年度1Q	'20年度1Q	増減	'19年度末	'20年度1Q	増減
資源・エネルギー・環境	472	458	▲ 14	5,212	4,997	▲ 215
社会基盤・海洋	340	289	▲ 50	2,296	2,259	▲ 37
産業システム・汎用機械	1,160	740	▲ 419	1,908	1,748	▲ 159
航空・宇宙・防衛	135	120	▲ 14	4,936	4,504	▲ 432
報告セグメント計	2,108	1,609	▲ 499	14,354	13,509	▲ 844
その他	195	157	▲ 38	266	302	36
調整額	▲ 103	▲ 92	11	-	-	-
合計	2,200	1,674	▲ 525	14,620	13,811	▲ 808
海外受注高・受注残高	666	512	▲ 153	6,055	5,651	▲ 403
海外受注高・受注残高比率	30%	31%	1%	41%	41%	0%

1. 2020年度第1四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益)

(億円)

	売上高			営業利益		
	'19年度1Q	'20年度1Q	増減	'19年度1Q	'20年度1Q	増減
資源・エネルギー・環境	648	▲4 640	▲8	▲57	▲14 ▲34	22
社会基盤・海洋	328	10 319	▲8	25	0 21	▲4
産業システム・汎用機械	867	41 781	▲86	2	1 ▲17	▲20
航空・宇宙・防衛	902	▲139 424	▲478	54	▲2 ▲47	▲101
報告セグメント計	2,747	▲91 2,165	▲581	24	▲15 ▲78	▲103
その他	153	▲11 105	▲48	1	0 ▲5	▲7
調整額	▲89	▲85	3	▲17	▲8	9
合計	2,811	▲103 2,185	▲626	9	▲15 ▲92	▲101

海外売上高	1,422	829	▲593
海外売上高比率	51%	38%	▲13%

‘20年度1Qの売上高、営業利益の左肩の数値は、収益認識会計基準適用の影響を示しています。

1. 2020年度第1四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(営業利益の前期比増減要因)

(億円)

	売上高の増減	工事採算の変動	為替の変動	販管費の変動	収益認識会計基準適用の影響	合計
資源・エネルギー・環境	▲ 3	38		1	▲ 14	22
社会基盤・海洋	▲ 4	▲ 2		2		▲ 4
産業システム・汎用機械	▲ 42			21	1	▲ 20
航空・宇宙・防衛	▲ 132	14	▲ 3	22	▲ 2	▲ 101
報告セグメント計	▲ 182	50	▲ 3	48	▲ 15	▲ 103
その他	▲ 6	▲ 6		5		▲ 7
調整額		8		1		9
合計	▲ 188	51	▲ 3	54	▲ 15	▲ 101

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合があります。

※「産業システム・汎用機械」及び「航空・宇宙・防衛」の売上高の増減要因は、主として新型コロナウイルス感染拡大の影響

➤ 民間向け航空エンジン

旅客需要の急激な減少やエアラインの経営状況悪化により、エンジン及びスペアパーツの販売が減少しています。国内線(主に中短距離路線)の旅客需要が先行して回復することが想定されるものの、感染拡大が収束していない状況で、地域によって回復のスピードにばらつきが出ると思われれます。国際線(主に長距離路線)については、入国にあたって各種制約を伴うため、国内線以上に回復に向けた動きは鈍く、全体として完全な回復には数年の期間を要するものと見込まれます。

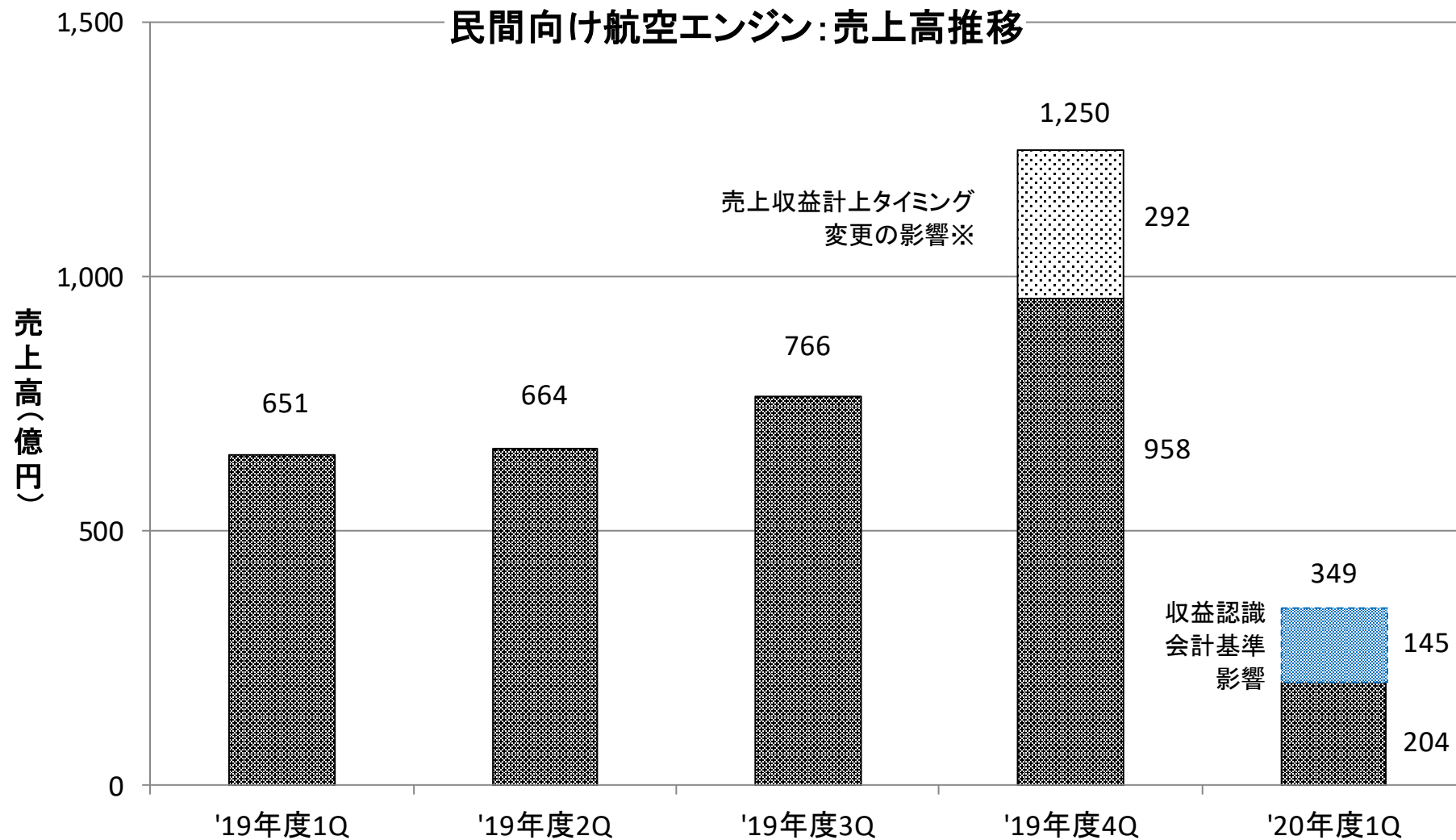
その中において、当社のエンジンは比較的新しいタイプの航空機に搭載されており、旅客需要の回復期においては、燃費をはじめ運用コストにおける優位性から優先的に運用が再開されることが想定され、アフターマーケットでの収益の早期回復が期待されます。

➤ 車両過給機

世界的な自動車需要の減少や自動車会社の工場生産停止の影響により、全体での販売台数は減少しています。しかしながら、自動車産業の低迷脱却が進む中国市場での販売台数は増加しており、米国や欧州でも5月中旬からの自動車会社の工場稼働の再開により、回復の兆しがみられます。

⇒新型コロナウイルス感染拡大の影響への対策として、設備投資・研究開発費の一時凍結・抑制や、総費用・固定経費、棚卸資産の圧縮、成長分野・ライフサイクル事業への機動的な人材リソースシフトなどの取り組みを進めており、今後の事業環境や需要回復の状況に応じて取り組みを強化していきます。

1. 2020年度第1四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(新型コロナウイルス感染拡大の影響)

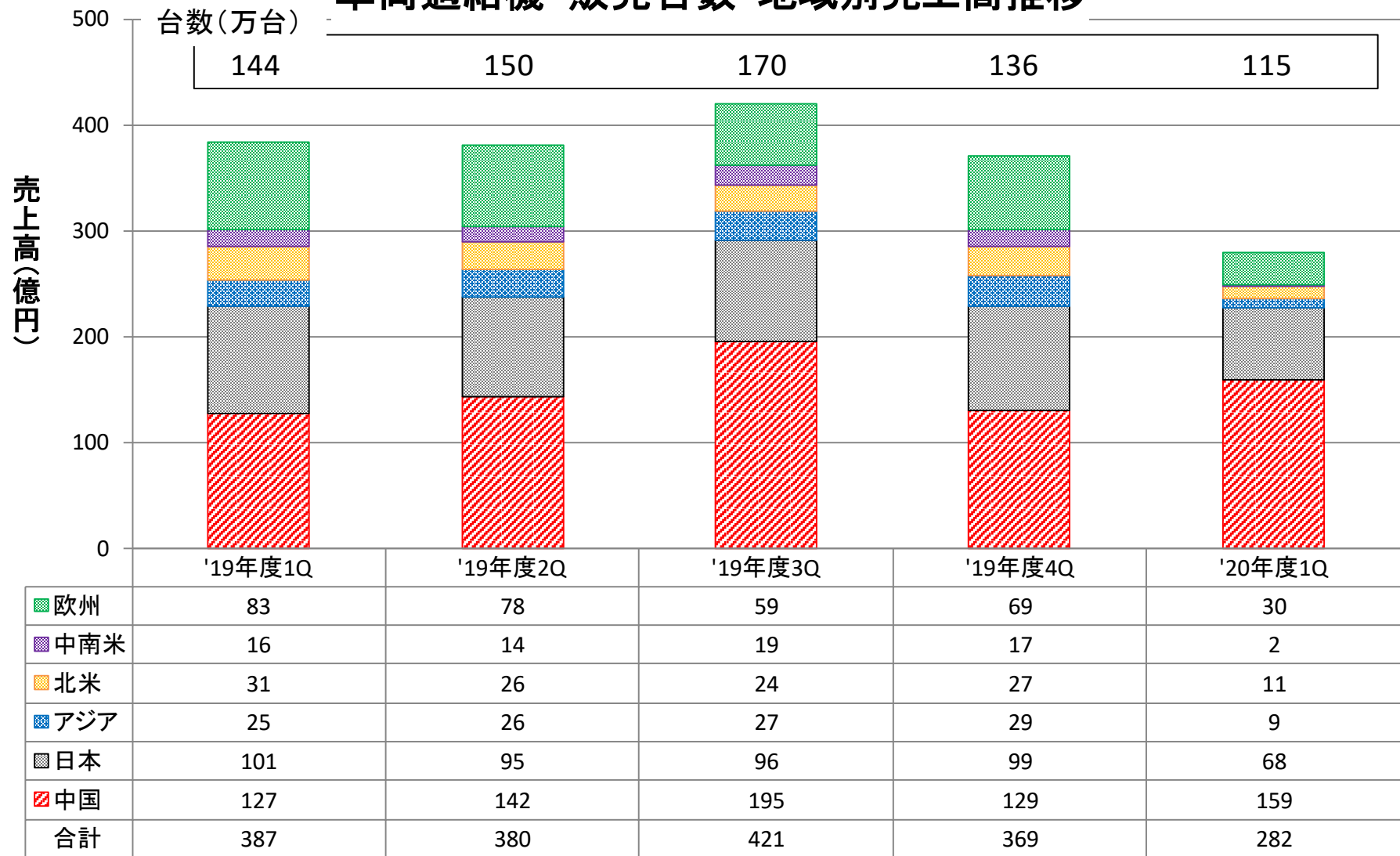


前年同期に対してエンジン及びスペアパーツの販売減少により46.4%の減収

※民間向け航空エンジンについて、1か月遅れで認識していた売上収益を同月に計上することに変更した影響

1. 2020年度第1四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(新型コロナウイルス感染拡大の影響)

車両過給機 販売台数・地域別売上高推移



前年同期に対して、中国での販売台数, 売上高は増加

1. 2020年度第1四半期 連結決算

報告セグメント別内訳(新型コロナウイルス感染拡大への対策の進捗)

対策	進捗	今後
手元流動資金の確保	<ul style="list-style-type: none"> 約2,000億円の資金調達枠を設定 有利子負債残高を前年度末と同水準に維持 	金融市場の動向と資金需要を見極めながら適切な対応を継続
設備・研究開発等の投資の一時凍結・抑制	当年度の投資額▲400億円程度の削減を決定	<ul style="list-style-type: none"> 個別投資案件の実行段階で予算精査による更なる削減の実施 アフターコロナを見据えた投資水準の検討
総費用・固定費の圧縮	第1四半期の販管費を前年同期比で▲60億円圧縮	<ul style="list-style-type: none"> 事業環境の動向を注視しつつ、対策の実行を強力に推進 事業ポートフォリオの再構築を通じ筋肉質かつ柔軟な経営体質への転換を加速
棚卸資産の圧縮	<ul style="list-style-type: none"> 感染拡大以前の発注品検収により、民間向け航空エンジン事業の棚卸資産が増加 民間向け航空エンジンの減産に伴いサプライヤーと納期後倒しを調整中 	
生産調整	<ul style="list-style-type: none"> IHI及び国内関係会社での一時帰休を6月から継続 車両過給機事業の海外拠点を中心に生産調整を実施 	
機動的な人材リソースシフト	短期的に必要な対応を優先的に順次実行中	成長分野・ライフサイクル事業への重点的な人材配置を本格化

1. 2020年度第1四半期 連結決算 営業外損益

(億円)

	'19年度1Q	'20年度1Q	増 減
金融収支	▲ 2	▲ 3	▲ 1
持分法による投資損益	▲ 6	22	29
為替差損益	▲ 11	▲ 9	2
その他	4	3	0
営業外損益	▲ 16	13	29

期末日レートの変動(米ドル) '19年度1Q ▲3.20円(期首110.99円→1Q末107.79円)
'20年度1Q ▲1.09円(期首108.83円→1Q末107.74円)

1. 2020年度第1四半期 連結決算 連結貸借対照表

(億円)

	'19年度末	'20年度1Q末	増減
資産合計	17,407	16,747	▲ 660
(うち 現預金)	(1,472)	(841)	(▲ 630)
(うち 売上債権, 契約資産)	(4,038)	(3,771)	(▲ 266)
(うち 棚卸資産)	(4,455)	(4,544)	(89)
負債合計	13,870	13,026	▲ 844
(うち 仕入債務)	(2,625)	(2,305)	(▲ 320)
(うち 契約負債)	(1,517)	(1,682)	(164)
(うち 有利子負債残高)	(4,881)	(4,872)	(▲ 9)
純資産合計	3,537	3,720	183
株主資本	3,292	3,460	168
その他の包括利益累計額	▲ 28	▲ 17	10
非支配株主持分等	273	277	3
負債・純資産合計	17,407	16,747	▲ 660
D/Eレシオ (※)	1.38倍	1.31倍	▲ 0.07倍
自己資本比率	18.7%	20.6%	1.8%

有利子負債残高には、リース債務残高('19年度末:273億円, '20年度1Q末:281億円)を含んでいます。

(※) D/Eレシオ=有利子負債/純資産

収益認識会計基準適用により、期首の株主資本(利益剰余金)が274億円増加

(1) 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	'19年度1Q	'20年度1Q	増 減
営業キャッシュ・フロー	▲ 299	▲ 291	7
投資キャッシュ・フロー	▲ 116	▲ 262	▲ 146
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 415	▲ 554	▲ 138
財務キャッシュ・フロー	191	▲ 91	▲ 282

2019年度に竣工した鶴ヶ島工場建屋の支払い等により投資キャッシュ・フローが増加

(2) 研究開発費・設備投資額・減価償却費 (億円)

	'19年度1Q	'20年度1Q
研究開発費	70	53
設備投資額	114	87
減価償却費	121	141

設備, 研究開発等の投資の一部凍結・抑制により減少

設備投資額, 減価償却費は, 有形固定資産およびソフトウェアに係る金額を示しています。

(3) 海外売上高 (億円)

	'19年度1Q	'20年度1Q
ア ジ ア	244	230
中 国	188	225
北 米	804	248
中 南 米	23	6
欧 州	153	103
そ の 他	8	15
合 計	1,422	829
海外売上高比率	51%	38%

主として民間向け航空エンジン, 車両過給機の減少

2. 2020年度 連結業績見通し

2. 2020年度 連結業績見通し 今後の見通し

今回の新型コロナウイルス感染拡大は社会・経済の変貌や価値観の変容をもたらし、当社グループを取り巻く環境は大きく変化しました。持続可能な事業構造への変革に向けて、成長分野・収益事業への大胆かつ機動的なリソースシフトを加速させ、対策を要する既存事業の再生・再編を確実に実行し、「アフターコロナ」の環境変化への耐性を備えた筋肉質かつ柔軟な経営体質への転換を進めてまいります。

新型コロナウイルス感染拡大の収束時期は引き続き不透明であり、現時点で当社グループの業績に与える影響を合理的に算定することが困難であることから、2020年度の業績見通しは「未定」とさせていただきます。

（業績への影響を慎重に見極め、合理的な算定が可能となった時点で、速やかに公表を予定）

3. 報告セグメント別の概況

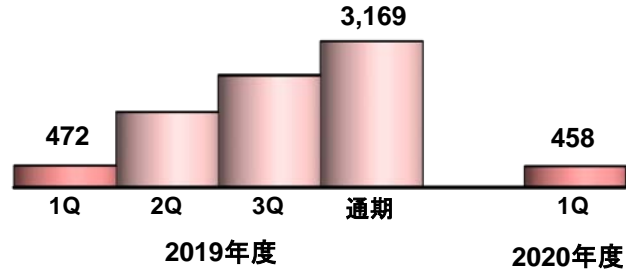
3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円/各期の金額は累計)

(参考)収益認識会計基準適用影響を除いた実績

主要事業:原動機, ボイラ, プラント, 原子力

受注高



<対前年同期 増減内訳>

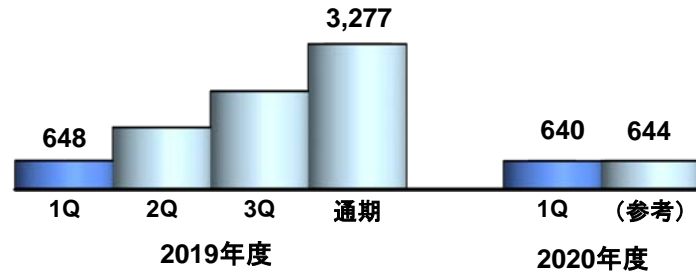
【受注高】

若干減少したものの、前年同期並みとなりました。

【売上高】

プラントで減収となったものの、ボイラの増収により、前年同期並みとなりました。

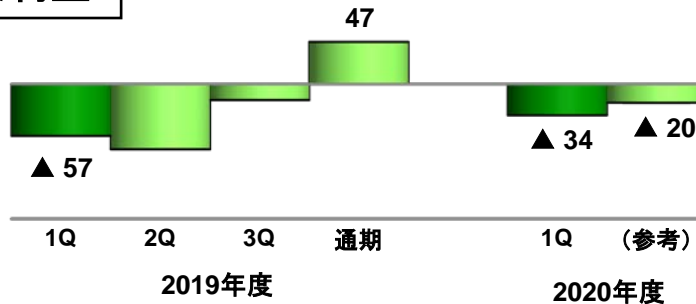
売上高



【営業利益】

前年同期にボイラや原動機で一部受注工事の採算性低下があったことによる反動で、赤字幅が縮小しました。

営業利益



3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

(億円)

	受注高			売上高				
	'19年度		'20年度	'19年度			'20年度	
	1Q	通期	1Q	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q
原 動 機	173	826	190	179	360	534	861	188
ボ イ ラ	69	956	74	168	448	702	984	200
プ ラ ン ト	49	321	28	138	266	392	564	95
原 子 力	89	362	92	48	89	135	279	52

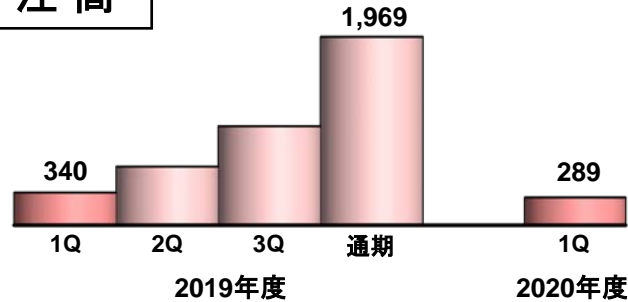
3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円/各期の金額は累計)

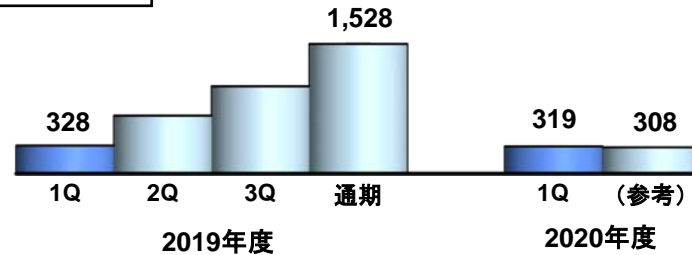
(参考)収益認識会計基準適用影響を除いた実績

主要事業:橋梁・水門, 交通システム, シールドシステム,
コンクリート建材, 都市開発

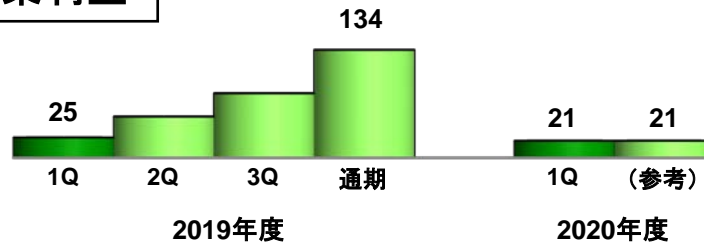
受注高



売上高



営業利益



<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

交通システムで減少しました。

【売上高】

橋梁・水門で減収となったものの、交通システム、都市開発の増収により、前年同期並みとなりました。

【営業利益】

都市開発で増収による増益、橋梁・水門の減収による減益などがあり、全体では減益となりました。

3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

(億円)

	受注高			売上高				
	'19年度		'20年度	'19年度				'20年度
	1Q	通期	1Q	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q
橋梁・水門	115	1,111	111	192	382	575	835	151
シールドシステム	55	236	47	46	97	120	155	35
都市開発	39	165	65	39	79	118	165	66

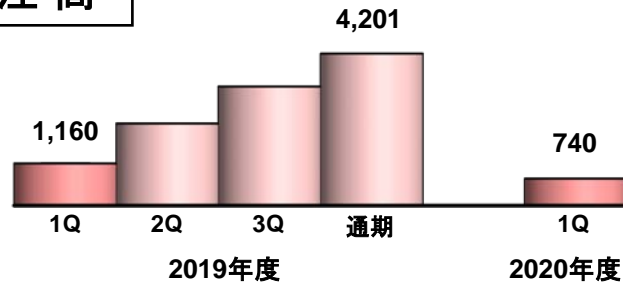
※「都市開発」の豊洲地区関連情報は、P35、P36の<参考資料>をご覧ください。

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円/各期の金額は累計)
(参考)収益認識会計基準適用影響を除いた実績

主要事業:車両過給機, パーキング, 回転機械, 熱・表面処理,
運搬機械, 物流・産業システム

受注高

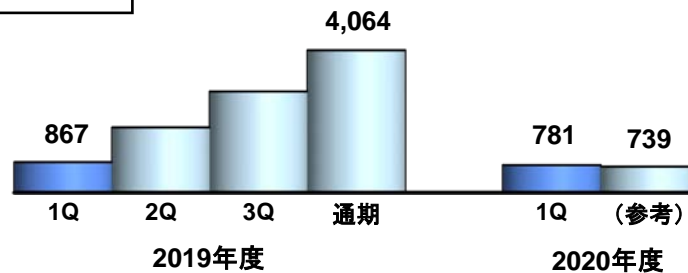


<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

前年同期に大型案件のあった運搬機械や物流・産業システムの影響に加え, 車両過給機で新型コロナウイルス感染拡大の影響により減少しました。

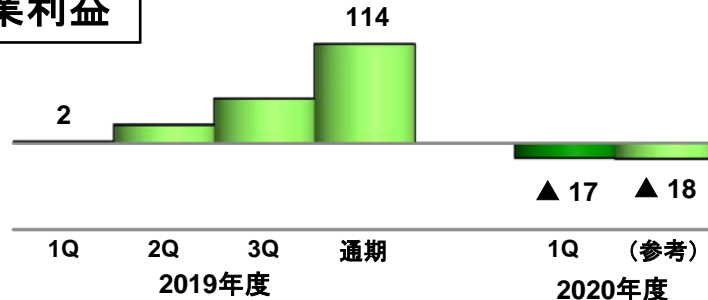
売上高



【売上高】

運搬機械で増収となったものの, 車両過給機, 熱・表面処理の減収により, 減収となりました。

営業利益



【営業利益】

車両過給機や熱・表面処理の減収の影響により減益となりました。

<車両過給機の販売台数>

(万台)

販売年度	1Q	通期
2019年度	144	600
2020年度	115	-

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

(億円)

	受注高			売上高				
	'19年度		'20年度	'19年度				'20年度
	1Q	通期	1Q	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q
車両過給機	386	1,555	283	387	767	1,188	1,557	282
パーキング	141	534	102	100	220	339	530	94
回転機械	126	513	120	104	211	335	490	103
熱・表面処理	84	322	56	98	197	291	377	67
運搬機械	195	612	49	37	92	177	290	102

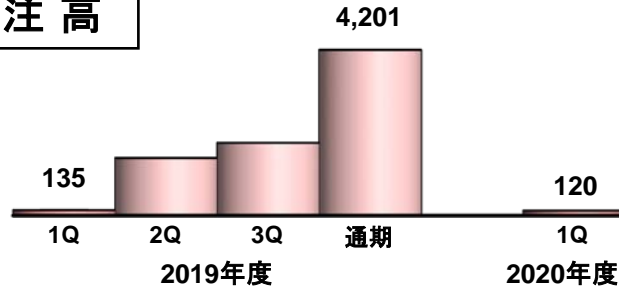
※「車両過給機」の詳細は、P34の<参考資料>をご覧ください。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円/各期の金額は累計)
(参考)収益認識会計基準適用影響を除いた実績

主要事業: 航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム

受注高

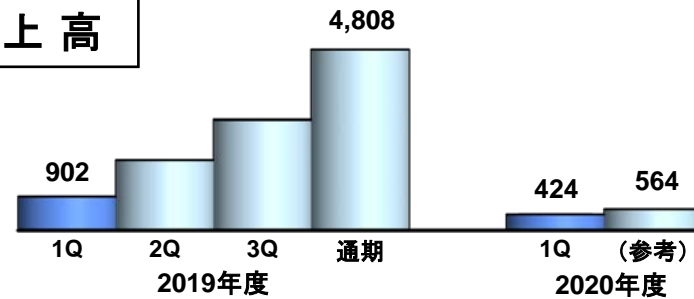


<対前年同期 増減内訳>

【受注高】

若干減少したものの、前年同期並みとなりました。

売上高



【売上高】

民間向け航空エンジンの新型コロナウイルス感染拡大による旅客需要の減少の影響に加えて、収益認識会計基準の適用により、減収となりました。

※収益認識会計基準の影響

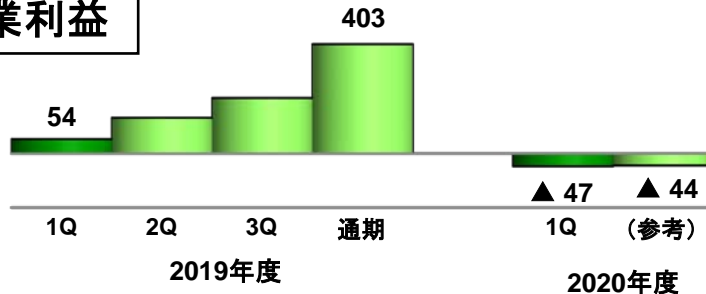
売上高 ▲139億円, 営業利益 ▲2億円

<民間向け航空エンジンの販売台数>

(台)

販売年度	1Q	通期
2019年度	372	1,571
2020年度	185	-

営業利益



【営業利益】

民間向け航空エンジンの減収の影響により減益となりました。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

(億円)

	受注高			売上高				
	'19年度		'20年度	'19年度				'20年度
	1Q	通期	1Q	1Q	2Q累計	3Q累計	通期	1Q
民間向け 航空エンジン	19	3,082	17	651	1,315	2,081	3,331	204
(参考)収益認識会計基準適用影響を除いた実績:								349

※「民間向け航空エンジン」の詳細は、P33の<参考資料>をご覧ください。

<参考資料>

- ・業績の推移
- ・大型案件の進捗状況
- ・当第1四半期のトピックス
- ・航空エンジン
- ・車両過給機
- ・都市開発

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020/1Q
売上高	14,683億円	15,903億円	14,834億円	13,865億円	2,185億円
営業利益率 営業利益	3.2% 473億円	4.5% 722億円	5.6% 824億円	4.4% 607億円	▲4.2% ▲92億円
経常利益	220億円	214億円	657億円	322億円	▲79億円
親会社株主に 帰属する当期純利益	52億円	82億円	398億円	128億円	▲76億円
ROIC (※1)	5.0%	7.7%	8.7%	5.7%	—
CCC (※2)	87日	83日	97日	120日	—
D/Eレシオ (※3)	1.10倍	0.92倍	0.93倍	1.38倍	1.31倍
ROE (※4)	1.6%	2.6%	11.8%	3.8%	—
配当	0円/株	中間3円/株 期末30円/株 (期末は、株式併合後)	70円/株 (中間30円, 期末40円)	50円/株 (中間30円, 期末20円)	—
為替レート	108.27円/\$	111.00円/\$	111.09円/\$	109.16円/\$	107.05円/\$

※1 : ROIC(投下資本利益率) = 税引後(営業利益 + 受取利息・配当金) / (自己資本 + 有利子負債)

※2 : CCC = 運転資本 / 売上高 × 365日

※3 : D/Eレシオ = 有利子負債 / 純資産

※4 : ROE(自己資本利益率) = 親会社株主に帰属する当期純利益 / (前期末・当期末平均 自己資本)

エルバ天然ガス液化設備



完成予想図



据付完了状況

<主要工程>

- 2016年3月: 契約締結
- 2016年11月: FERC (米国連邦エネルギー規制委員会) の建設許可承認
- 2017年2月: No.1トレイン液化モジュール (MMLS) 到着開始
- 2019年9月: No.1トレイン 商業運転開始
- 2020年第2四半期内: プラント全体引き渡し

MMLS: Movable Modular Liquefaction System

液化トレインはプラント全体で10トレインあり, 1トレインは79モジュールで構成

<プロジェクト概要>

- ・契約内容: エルバ島 天然ガス液化設備のEPC契約
- ・建設地: 米国ジョージア州 チャタム郡 サバンナ エルバ島
- ・担当範囲: 年産約250万トンの液化設備の設計 (液化モジュールはお客様支給), 建設, 試運転

<進捗状況>

2020年6月末現在で, 液化モジュール(MMLS) No.1~6は商業運転中, MMLS No.8は運転調整中, MMLS No.7, 9, 10は試運転中。
進捗は設計:100%, 調達:100%, 据付:99.9%, 試運転:97.2%, プロジェクト全体:99.8%。

<2020年8月3日時点の進捗状況>

MMLS No.	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7	#8	#9	#10
Mechanical Completion	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
試運転開始 (進捗%)	○	○	○	○	○	○	○ (88.1%)	○ (100%)	○ (100.0%)	○ (92.5%)
商業運転開始	○	○	○	○	○	○	2020年 第2四半期内	○	○	

(注) 現時点においてはMMLS#7が最終トレインとなっている

竹原火力発電所新1号機向けボイラ



電源開発(株)殿竹原火力発電所新1号機・3号機全景

写真提供: J-POWER 電源開発(株)殿

<竹原火力発電所新1号機概要>

お客さま: 電源開発株式会社殿

所在地: 広島県竹原市忠海

出力: 60万KW

発電方式: 超々臨界圧微粉炭火力

<主要工程>

契約調印: 2015年9月

ボイラ立柱: 2018年2月

営業運転開始: 2020年6月

鹿島火力発電所2号機向けボイラ



鹿島パワー(株)殿鹿島火力発電所2号機全景

写真提供: 鹿島パワー(株)殿

<鹿島火力発電所2号機概要>

お客さま: 鹿島パワー株式会社殿

所在地: 茨城県鹿島市光3番地

出力: 64.5万KW(発電端)

発電方式: 超々臨界圧微粉炭火力

<主要工程>

契約調印: 2014年6月

ボイラ立柱: 2017年12月

営業運転開始: 2020年7月

異常体温スクリーニングのためのFeverCheck™を販売開始



<活用イメージ>

IHIのグループ会社である株式会社IHI検査計測は、AIによる顔認識機能により、対象者の体表面温度のみを瞬時に非接触で測定し、異常体温者を自動的に通知するシステム『FeverCheck』の販売を開始いたしました。

『FeverCheck』は、複数の歩行者を止めることなく、AIで顔を正確に特定することで、顔近傍の体表面温度のみを非接触で同時に測定するとともに、異常体表面温度者が通過した場合には、オペレータにリアルタイムで通知するスクリーニングシステムです。オフィス・工場・学校など多数が入場する場所での計測を効率化でき、接触によるウイルス感染リスクを大幅に減らすことができます。

新型コロナウイルス感染症対策に高性能オゾン関連製品の販売、増産を開始

IHIとグループ会社である株式会社IHIアグリテック(以下「IAT」)は簡単に隔離空間をつくれる簡易陰圧 TENT を開発し、販売を開始しました。

本製品は、IATが販売しているオゾンと高性能HEPAフィルタによる空気清浄機を組み合わせることで、TENT内の空気を吸引して除菌することができます。簡易式のため15分以内に設置が可能で、陰圧室が不足している病院をはじめ、介護施設などでの活用も可能です。

また、IATで販売を行なっている高性能オゾン関連製品等は、今般の感染症対策に加え、ウィズコロナ・アフターコロナの予防措置となり得る機器として、需要が急増しています。そこで、生産体制を強化し、大幅増産を行なっています。

IHIグループでは、新型コロナウイルス感染症の拡大抑制に向けた取り組みを強化し、社会に貢献していきます。

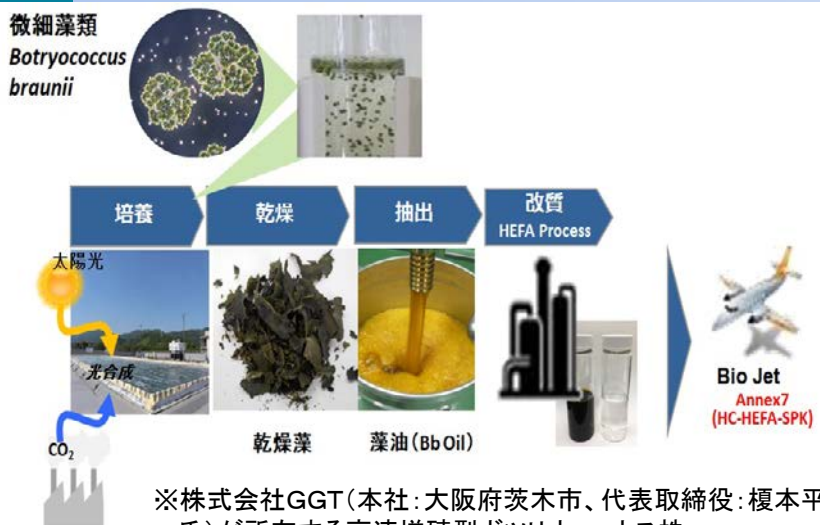


空気清浄機eZ-100



可搬式空気清浄機

藻類由来バイオジェット燃料が国際規格ASTM認証取得，民間機で利用可能に



IHIと国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(以下「NEDO」)は、微細藻類からバイオジェット燃料を生産する技術開発を進めています。IHIは、本技術で生産したバイオジェット燃料について、航空用代替ジェット燃料に関する国際規格「ASTM D7566 Annex7」を取得しました。

これにより、当技術で製造されたバイオジェット燃料は、既存の燃料と混合して民間航空機の運航に利用することが可能となり、航空機が排出するCO₂の削減が期待されます。

今後は、実用化に向けた検討を進め、航空分野におけるCO₂等温室効果ガス排出量の一層の削減に貢献していきます。

国際競争力強化に向けた「イプシロンSロケット」の基本協定を締結 ～衛星打上げビジネスへ参入～

IHIのグループ会社である株式会社IHIエアロスペース(以下「IA」)は、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(以下「JAXA」)と、「イプシロンSロケットの開発及び打上げ輸送サービス事業の実施に関する基本協定」を締結しました。

イプシロンロケットは、JAXAが開発し、IAが機体システムの設計・製造を担当しており、これまで全ての打上げに成功しています。「イプシロンSロケット」は、これまでの開発成果をもとに、H3ロケットとのシナジー効果を発揮させて国際競争力を強化することを目的に、新たに開発するロケットです。

今後、JAXAと共同で「イプシロンSロケット」を開発するとともに、これを用いて、打上げ輸送サービスを展開する計画です。衛星打上げ市場への参入による宇宙輸送分野の事業拡大を目指し、開発及び全世界での受注活動に取り組んでいきます。



<イプシロンロケット4号機
打上げ ©JAXA>

(1) 民間向け航空エンジン: 連結売上高推移

(億円)

	実績								
	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19年度		'20年度
							1Q	通期	1Q
売上高	2,260	2,670	2,991	2,915	2,810	3,185	651	3,331	204
	(参考) 収益認識会計基準適用影響を除いた実績:								349

(2) 民間向け航空エンジン: 累計販売台数

(台)

	実績(累計)										主要搭載機
	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20/1Q	
V2500	4,980	5,468	5,969	6,469	6,896	7,236	7,508	7,688	7,735	7,735	エアバス A319/320/321
GE90	1,399	1,589	1,806	2,039	2,257	2,457	2,617	2,715	2,824	2,839	ボーイング B777
CF34	3,242	3,548	3,820	4,156	4,471	4,821	5,085	5,331	5,611	5,646	リージョナルジェット (70~110席級)
GEhx	118	259	468	751	1,035	1,295	1,542	1,826	2,159	2,211	ボーイング B787/B747-8
PW1100G					16	148	398	1,058	1,784	1,863	エアバス A320Neo
Passport20							13	66	142	146	ボンバルディア社 Global7500
合計	9,739	10,864	12,063	13,415	14,675	15,957	17,163	18,684	20,255	20,440	

(注) 販売台数は、機体メーカーに引き渡した台数であり、工場出荷台数とは異なります。

＜地域別連結売上高推移＞

(億円)

	実績									
	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19年度		'20年度
								1Q	通期	1Q
日 本	339	353	375	346	389	398	446	101	391	68
ア ジ ア	248	298	275	216	158	117	110	25	107	9
中 国	181	234	243	249	485	719	631	127	593	159
北 米	13	16	18	24	33	84	116	31	108	11
中 南 米	0	0	7	34	61	74	75	16	66	2
欧 州	432	602	756	743	617	811	513	83	289	30
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
合 計	1,216	1,507	1,677	1,616	1,746	2,205	1,895	387	1,557	282

(1) 豊洲地区 賃貸収入の実績推移

(億円)

	実績									
	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19年度		'20年度
								1Q	通期	1Q
賃貸収入	92	91	93	101	93	92	93	23	94	30

(2) 豊洲地区 賃貸収入, 賃貸費用実績(当期)

(億円)

	賃貸収入	賃貸費用		差額
		減価償却費	その他	
'20年度1Q	30	10	7	12

豊洲1~3丁目地区 開発マップ

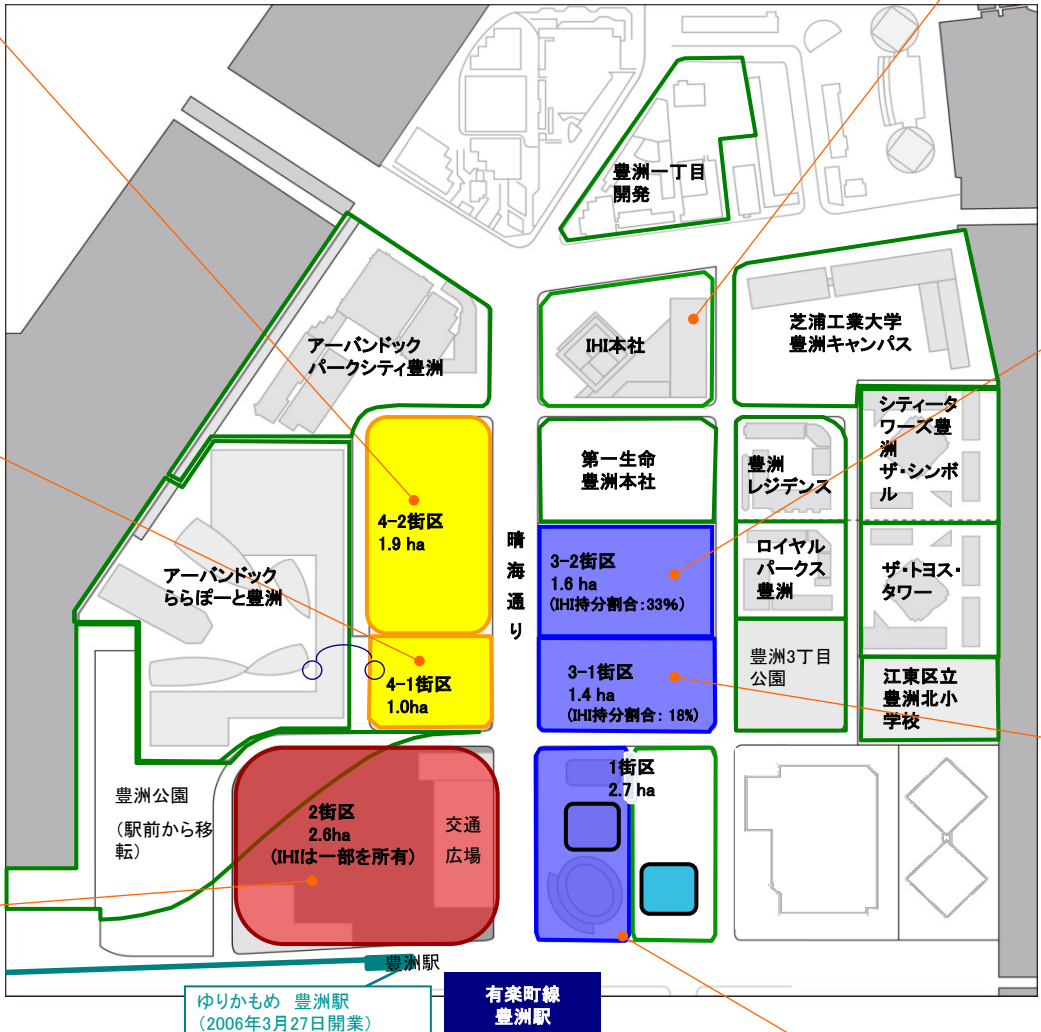
幼稚園、保育園、カフェ、結婚式場
敷地面積：19,492㎡
2010年3月～2011年2月竣工



アーバンドック ららぽーと豊洲ANNEX (三井不動産)
地上5F, 高さ約25m, 延床面積：24,721㎡
2006年10月開業



豊洲ベイサイドクロスタワー (AC棟) (IHI, 三井不動産)
地上36F, 高さ178m, 延床面積約185,000㎡
2020年3月竣工

シビックセンター棟：2015年9月開業
消防署棟：2016年6月竣工

IHI所有地	約5ha
--------	------

- 建物賃貸
- 土地賃貸
- 建物賃貸(借地)
- 第一種市街地再開発事業 ※1
- 売却・寄付・交換済

豊洲IHIビル
地上25F, 高さ：約125m, 延床面積：97,617㎡
2006年2月竣工



豊洲フォレシア (IHI, 三菱地所 (SPC))
地上16F, 高さ：約75m, 延床面積：101,503㎡
2014年7月竣工



豊洲フロント (IHI, 三菱地所 (SPC), 三菱UFJ信託銀行)
地上15F, 高さ：約75m, 延床面積：106,861㎡
2010年8月竣工



豊洲センタービル
地上37F, 高さ：約165m, 延床面積：100,069㎡
1992年10月竣工

豊洲センタービルアネックス
地上33F, 高さ：約150m, 延床面積：105,448㎡
2006年8月竣工

※1 都市再開発法で定める手法の一つ

IHI

Realize your dreams

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際に業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。